

宜野湾高校の生徒達へ（75）

2021.1.26

「〈受験する君へ〉『どうせ無理』を乗り越え、主人公に」のタイトルに目がとまった(朝日新聞:1.17)。作家&社長の東大生・西岡孝誠氏は、2浪して東大文科二類に合格。経済学部に在籍しつつ、『「考える技術」と「地頭力」がいききに身につく**東大思考**(以下『東大思考』)』（東洋経済新報社）など多数出版している。

小中学校時代は人間関係を構築するのが苦手で、いじめやいじりを受け、学校も楽しくなく、中学では1日6時間ぐらいゲームしていたという。そんな西岡氏に**転機**があった。

中3の担任が向き合ってくれました。幼稚園の時はまだ、なりたい自分がいた。でも、小中学校になったら、「**どうせなれません**」という1本の線が僕の周りを囲んで、それがどんどん近づいてきた。でも、先生は「**その線を超えたら見えてくる世界は変わる**。勉強は頑張っただけついてくる。お前、東大へ行け！」って言ったんです。「えっ、俺、学年ビりに近いんですよ」って。その先生に半分だまされたように、高2からガッツと勉強して。ところが、高3の最初の模試は偏差値35。英語の偏差値は27でした。現役でも1浪でも東大は落ちて、崖っぷちの状況で考えた「**思考法**」で、偏差値70に。東大模試で4位になり、2浪で合格を果たしました。

もちろん、不合格だった時は、かなり参りましたよ。でも、かつての自分のように「**俺には無理**」という線の中には、もういたくなかった。



僕は、**受験**って**スポーツ**だと思うんです。**本気で挑んだ人は勝とうが負けようが、得られるものはある**。「前はゲームに負けてもヘラヘラしてたけど、今は悔しそうにしているよね」と友達に言われます。やっと**自分の人生の物語の主人公**になれた。

東大はそれほどバラ色の世界ではなかったけれど、僕が得たかったのは「**東大合格**」ではなく、**自分を変える**ことだったから、絶望や空虚は感じなかった。

あと、応援してくれる家族の存在をないがしろにしちゃいけない。僕も2浪の時の合格発表前日にやっと、**父のありがたみ**がわかった。「ありがとう」を知っている受験生は強い。ちゃんと戦って、**自分の線**を乗り越えて、前に進みましょう。

西岡氏は、冒頭でふれた『東大思考』で、「ちょっと**頭の使い方**を変えるだけで、実は誰でも〈頭のいい人〉になれる。多くの東大生に共通している5つの思考回路を**誰でも実現可能な思考法**、もともとの頭のできに関係なく**実戦可能なテクニック**」として、紹介している。

どんなに勉強しても偏差値が35だった僕は、この「**考える技術**」にたどり着いたとき、「**頭の良さ**」ってこういうことか——と感動しました。

僕の東大合格を支えたこの「**考える技術**」に、「生まれつきの才能」なんて関係ありません。こんな僕にもできたんですから。あの感動を、ぜひ皆さんにも味わっていただけたら嬉しいです。

誰もがうらやむ「**5つの頭の良さ**」は、次の通り。「よく覚えているな、そんなこと！」——絶対に忘れない**記憶力**。「めっちゃプレゼンうまいよね！」——難しいことも的確に伝える**要約力**。「あの人の解説、わかりやすい！」——誰にでも必ず理解させる**説明力**。「なんでそんなこと思いつくの？」——自然とあふれる「**ひらめき**」力。「あの人に任せておけば大丈夫！」——頼りにされる**問題解決力**。

(honto より引用)



この「5つの頭の良さ」は、「総合的な探究の時間(総探)」とも関係している。総探の発表で、発表内容をわかりやすく、**的確に説明**する力や**テーマを解決**していく力。また、テーマを設定する際の**ひらめき**や**問題解決のアイデア**。このように考えると、総探にしっかり取り組むことで、「5つの頭の良さ」の4つを身につけることが可能となる。総探の取組を充実させることで、宜野湾高等学校から**東大生**が誕生する日もそう遠くはない？ いよいよ、明日は「**G1 マイプロジェクト HR 発表会**」。これまでの取組に**自信**を持って、堂々と発表して下さい。 沖縄県立宜野湾高等学校長 津留一郎